

氷ノ山道迷い(2012年3月)

氷ノ山を越え、下りの尾根分岐で道迷い。気づいて登り返す判断は正しかったが、雪の付いた登り返しは疲労した体にこたえる。北側の遠くに目的地が見えたため、近道のトラバースを試みた。尾根・沢の繰り返しトラバースは、登り以上に時間がかかった。トラバースを諦め、三の丸の避難小屋にビバークを決め、斜面を登り返す。途中で、リフトへの足跡を見つけ、スキー場の明りを頼りに下り、午後10:30下山した。



解説

天候の良い、残雪期の行動。長い道のりを歩いてきたが、下りで気を緩めたのか最後の尾根分岐で道に迷う。途中で気づき、尾根を登り返すも途中で登りが嫌になる。目的地はすぐそこに見える。「トラバースした方が近くて、楽。」この考えが誤りの始まりだった。

トラバースは、尾根・沢をいくつも越えなければならなかった。3月の雪面は雪崩の心配はなかったのだろうが、雪の斜面はとにかく歩きにくく、時間がかかる。トラバースを諦め「三の丸避難小屋」にビバークを決め、登り返した。途中でスキー場への足跡を発見し、午後10:30下山した。

残雪期の単独行動。道迷いをカバーしようと、「近くて、楽に見えるコース」へ吸い寄せられる。トラバースは時間がかかり、体力が奪われるのが分るのは、暗闇が迫ってからだった。下山を諦め、避難小屋へビバークを決めた所で、プラスの方向へ傾いていく。道迷いは、「何も考えていない」ところから始まり、「覚悟を決め正しい判断」をしたところで解決へと向かう。

「あれっ！おかしい！」この初期の段階で「覚悟を決め正しい判断」ができれば、よいのだが、多くの道迷い遭難はそれを許さない。肝に銘じて行動をしたい。